



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3340 号 2016.11.10 発行

子ども支援の新施設 旧聖トマス大跡活用し開設へ

神戸新聞 2016年11月9日



子どもの悩みに対応する支援センターが開設予定の旧聖トマス大学の建物＝尼崎市若王寺2

兵庫県の尼崎市は9日、虐待や発達障害、不登校など子どもを取り巻く課題にワンストップで対応する支援センターを開設する方針を明らかにした。窓口を一本化し、人員を強化する上、電子システムを構築して一人一人の生育などを継続的に記録。困難に直面している0歳からおよそ18歳までの子どもに対し、切れ目のない支援を目指すという。(岡西篤志)

同日の市議会健康福祉委員協議会で市が報告した。

市が寄付を受けた旧聖トマス大学(尼崎市若王寺2)の建物を活用。市民意見を公募し、早ければ2019年4月に開設する。

市では15年度の児童虐待相談件数が5年間で3・5倍に増加。不登校児童・生徒の割合は全国や兵庫県の平均を大きく上回り、保護者アンケートでも子の教育や発達に関する悩みや不安の声が多く聞かれた。各課題が複合的に絡んでいるケースが少なくないため、総合的な窓口が必要と判断した。

市によると、まず総合窓口の相談員が初期対応。より専門性が必要な場合は、センターの臨床心理士、教育指導主事、医師らが対応したり、病院や児童相談所などの関係機関につないだりするという。

具体的な支援として、発達障害では特性が表れやすい時期をとらえた「5歳児発達相談」の実施を検討。幼稚園・保育園から高校まで継続して支援できるよう学校園への情報提供も行う。

虐待は、相談件数の急増で継続的な対応が十分にできず、関係機関との連携も不足しているため、児童福祉司の養成や採用を検討。不登校は個別の支援プログラム作成などを進める。

担当者は「一本化することで情報を集約でき、課題も分析しやすくなる。解決につなげたい」としている。

皇太子さま、特別支援学校を視察 岐阜県訪問で、子ども励ます

共同通信 2016年11月10日

全国農業担い手サミットの開会式出席などのため、岐阜県を訪れている皇太子さまは10日、岐阜市の県立希望が丘こども医療福祉センターと、隣接する特別支援学校を視察された。

医療福祉センターでは、3～5歳の発達障害などの子どもらが手足を動かしたり、歩いたりする練習を視察。皇太子さまは「よく頑張ってるね」と声を掛けていた。

特別支援学校では、小学部と中学部の授業を見学。パソコンの操作を練習する中学部の生徒に「Fキーを使うんだよ」とアドバイスしていた。

その後、同市のホテルで雅子さまと合流し、30～40代の若手農業者らと交流した。

加古川市消防本部、障害者向け新システム運用開始

神戸新聞 2016年11月9日



加古川市消防本部が新たに導入する緊急通報システム「NET119」の画面

兵庫県の加古川市消防本部は9日から、聴覚や言語に障害があるなど、音声での緊急通報が困難な人を対象とした新システム「NET119」を運用する。携帯電話やスマートフォンのインターネット機能を活用して文字による確実な通報ができるほか、ボタン操作のみで救急車や消防車の出動要請ができるという。

利用者は事前登録が必要。「救急」「火事」「その他」など、状況に応じたボタンを押して通報できる。また、チャット機能を使い、通報を受けた消防と登録者との間で、周囲の状況や体の状態などについて、文字での対話が可能になる。

同市消防本部によると、音声での緊急通報が難しい人はこれまでファクスを使った通報が一般的だったという。システムは地図情報システム会社「ドーン」（神戸市）が開発。県内では神戸市、姫路市の各消防局が導入した。加古川市消防本部での登録者が神戸、姫路市などへ外出している際にシステムを使うと、現地の消防局が対応できるという。

消防局が対応できるという。

対象は加古川市、稲美町、播磨町に住み、音声での緊急通報が困難な人。登録は、加古川市障がい者支援課▽稲美町健康福祉課▽播磨町高齢障害福祉チームーでできる。21、22日の午後1～4時には加古川市民会館で登録説明会がある。（小林隆宏）

親子と本つながり 東成図書館の取り組み好評

大阪日日新聞 2016年11月9日

「笑顔の輪が広がっていけば」と思いを込める濱田館長（左）と福田さん

東成図書館（東成区大今里西3丁目、濱田仁美館長）は、乳幼児の保護者らが子どものお気に入りの本を紹介し合う企画を試みて好評だった。本の題名とその本に関する話をカードに記入してもらい、館内で展示したり、冊子にまとめて披露。関係者は「絵本を通してたくさんの親子が笑顔になってくれれば」と思いを込めている。

企画は、親子と本をつないでいくため、他の人の好きな一冊を参考にしてもらおうと実施。「うちの子のお気に入り」と題して本年度初めて試みた。記入用のカードは、図書館だけでなく、区内の子育て施設などでも設置してもらえよう関係機関と連携した。

いろいろな生き物たちが跳び上がるのを描いた『びょーん』を紹介した0歳児の母親は「一緒にびょーんと抱っこすると喜びます」と記入し、だるまが主人公の『だるまさんと』を記入した1歳児の母親は「いちごちゃんとのあいさつで笑います」とお気に入りのポイントを示していた。



集まったカードは、母の日にちなんで5月いっぱい予定で館内に展示していたが、好評だったため半月延長。展示期間も書き込みがあり、最終的には129枚が集まった。

本とコメントをまとめた冊子も作成。館内の児童コーナーで無料配布している。企画を担当した司書の福田良子さんは「絵本は赤ちゃんもお母さんも笑顔にするすてきな存在。新たな親子に知ってもらい笑顔の輪が広がっていけば」と話している。

元がん患者の音色 障害者にエール



河北新報 2016年11月10日

情感のこもった弾き語りで利用者を魅了した菅原さん

大崎市三本木在住の元がん患者でギター教室代表の菅原彰良さん(66)が9日、自宅近くの障害者福祉事業所「ハーモニーさんぼんぎ」で「秋のふれあいギターコンサート」を開いた。

悪性リンパ腫が原因で脚などに障害が残る菅原さんが「私の生きる力をみんなに分けたい」と企画した。「浜辺の歌」「北上夜曲」など17曲を演奏。NHKの連続テレビ小説「あさが来た」の主題歌「365日の紙飛行機」の弾き語りでは、会場から合唱がわき起こった。

ハーモニーさんぼんぎは、知的障害者など17～75歳の45人が利用。施設の梅田和裕管理者(52)は「利用者が前に出て踊っていたのは、喜びの最大級の表現。音楽の力は素晴らしい」と話した。

菅原さんは県内の仮設住宅や病院などを訪ね、年間20～30回のコンサートを開いている。

障害者競技を体感 千葉市全小中学校に選手訪問へ

読売新聞 2016年11月10日

2020年の東京パラリンピックに向けて障害者スポーツへの理解を深めてもらおうと、千葉市が障害者アスリートの学校訪問事業に取り組んでいる。9日には、車いすラグビーの選手が市立作新小学校(花見川区)で体験会を開いた。日本障がい者スポーツ協会は「計画的に学校訪問を続ける自治体は少ない」としており、市は東京大会までに全市立小中学校で実施する予定だ。

作新小にはこの日、リオデジャネイロ大会で銅メダルを獲得した市職員の官野一彦選手(35)ら4人が訪問。児童は競技用の車いすに乗って正面からのタックルを体感し、4年の中村彩乃さん(9)は「すごい迫力だった」と驚いていた。

東京大会では、シッティングバレーボール、車いすフェンシング、ゴールボール、テコンドーの4競技が市内で行われる。市は4年後のビッグイベントに向け、今年度から「障害者スポーツ普及・促進事業」を開始。国の地方創生加速化交付金約610万円を活用し、9月に体験イベント「パラスポーツフェスタちば」を開くなど、市民が親しみやすい催し物を企画している。

学校訪問はこの事業の一環で、6月に始まった。車いすラグビーのほか、シッティングバレーボール、車いすバスケットボールの選手が参加し、訪問先は10校を超えた。

東京大会の開催決定を契機に、自治体の支援の動きも全国的に広がりつつある。日本障がい者スポーツ協会によると、強化拠点となる施設の提供など、選手のレベルアップにつながる取り組みが目立つといい、千葉市でも今年7月、千葉ポートアリーナ(中央区)が車いすバスケットボールの強化拠点となった。

今回の学校訪問事業は、子供たちが選手と触れ合うことで障害者への理解を深めてもらう狙いもある。市は20年の東京大会までに、小学校112校、中学校55校の全校をア

スリートたちに訪れてもらう方針だ。

同協会は「学校訪問は単発で行われることが多く、継続するケースは珍しい」としている。官野選手は「生で見てもらうと印象が全く違うはずで、選手のことを覚えてもらえれば僕らの力になる。地道に続けたい」と話した。

小中生相談「いじめ」「虐待」倍増

読売新聞 2016年11月10日

◇大阪法務局「SOSミニレター」昨年度

大阪法務局は、小中学生に悩みを打ち明けてもらおうと配布している「子どもの人権SOSミニレター」による相談状況（2015年度）をまとめた。いじめや虐待に関する相談は前年度の約2倍となり、ミニレターをきっかけに虐待が発覚し、児童相談所が一時保護したケースもあった。

ミニレターは、全国の法務局が小中学校を通じて児童、生徒に配布しており、切手なしで法務局に郵送できる。それぞれの悩みに人権擁護委員や法務局の職員が返信。相談内容は原則として本人の承諾がない限り、学校や保護者にも伝えない。

大阪法務局では、15年度は1097件の相談が寄せられ、内訳は「いじめ」が414件（14年度200件）、「虐待」が54件（同29件）、「体罰」が2件（同3件）、「その他」が627件だった。「食事を抜かれる」などと記されていたケースでは、法務局が学校に事情を説明。母親らから継続的に暴力を受けていたことも判明し、児童相談所が一時保護したという。

大阪法務局は「身近な人には相談しにくい子どももいる。ミニレターが子どもの声を聞く機会になれば」としている。

道徳副読本に「虐待」表現？ 「激しくたたいた」削除へ 菅野雄介

朝日新聞 2016年11月10日

副読本の中には、来年度から削除される「目の中が真っ白になるくらい激しくほおをたたきました」の文章がある

「目の中が真っ白になるくらい激しくほおをたたきました」——。小学5年生向けの道徳の副読本に出てくる「母親」のこんな動作を表現した言葉が、来年度から削除されることになった。出版社は虐待などの誤解を与えかねない理由を説明する。ネット上では批判、容認それぞれの立場から議論が起こっている。

副読本は、教育系出版社「日本標準」（東京）の「みんなで考える道徳」。シェアは10%程度という。

「家族ってなんだろう」の項目で、花瓶を壊した子どもをしかる母親の行為として「目の中が真っ白になるほど——」の記述がある。お茶の水女子大の波平恵美子名誉教授（文化人類学）が2008年に出した「家族ってなんだろう」（出窓社）

から、11年度に引用された。家族内の人間関係を父、母、子、それぞれの立場から描いており、日本標準によると、家族の絆についての考えを深める狙いがあるという。

60代障害者男性の150万円着服 後見人の社会福祉士逮捕 徳島県警

産経新聞 2016年11月10日



徳島県警は10日、成年後見人として管理していた被後見人の銀行口座から計約150万円を着服したとして、業務上横領容疑で徳島県社会福祉士の元副会長（49）を逮捕した。

県警は元副会長が今回の逮捕容疑を含め、後見人などとして管理していた計5人の口座から数百万円を着服していたとみて裏付けを進める。

逮捕容疑は、徳島県内の身体障害などがある60代男性の銀行口座から2014年1～5月、3回にわたって計約150万円を着服した疑い。12年から後見人を務め「間違いありません」と容疑を認めている。

元副会長を後見人に選任した徳島家裁が6月に業務上横領容疑で県警に告発していた。県警によると、家裁の審査時には、金額を改ざんした預金通帳のコピーを提出するなどして発覚を免れていた。

勤続年数などに応じて給与アップ 介護職で厚労省方針 朝日新聞 2016年11月10日

「ニッポン1億総活躍プラン」に盛り込んだ介護職員の賃金を平均で月約1万円引き上げる対象について、厚生労働省は勤続年数や資格などに応じて昇給する仕組みを設けた事業所に限定する方針を固めた。処遇改善に取り組む施設を評価することで、介護現場の人材不足解消をめざす。

対象とする事業所は、例えば「勤続3年未満なら一般職員で月給28万円、3～6年なら班長32万円、6年以上なら主任36万円」など、具体的な昇級の仕組みを設けることを条件とする。勤続年数だけでなく、資格や実技試験の結果なども昇給の条件として考慮した場合も認める。

厚労省は事業所に対して具体的な昇進システムの導入を促し、処遇改善を進めやすくする。2017年度から実施する方針で、全国にある7割程度の事業所が対象になる見通し。必要な予算は約1千億円を見込んでいる。

厚労省の賃金構造基本統計調査（2015年）によると、介護職員の賞与を含む平均給与は月約26万円で、宿泊業や飲食業など対人サービス業の約27万円、全産業の約36万円に比べて低い。こうした処遇の低さが介護現場の人材不足の要因とみており、厚労省は処遇改善策を検討している。（水戸部六美）

介護福祉士の学校、留学生急増 入管法改正の見通し 十河朋子

朝日新聞 2016年11月10日



入浴実習室を見学するベトナムの医療短大の学長（左）ら＝大阪市阿倍野区の関西社会福祉専門学校

介護福祉士を養成する学校で留学生が急増し



ている。外国人の在留資格に、新たに「介護」を設ける法案が今国会で成立する見込みだからだ。人手不足に悩む介護事業者の中には、自ら受け入れルートを開拓して育成に乗り

介護福祉士養成施設(大学や専門学校など)への留学生入学者数



日本介護福祉士養成施設協会への取材から

の257人に。国籍はベトナムが114人と最も多く、中国53人、ネパール35人、フィリピン28人と続く。入学者全体の3%を占める。

なぜ急増しているのか。留学生が介護福祉士の資格を得ても、現状では日本で介護の仕事はできない。これが変わる可能性が出てきたためだ。

政府は今国会で、出入国管理及び難民認定法(入管法)改正法案の成立をめざす。外国人の在留資格に新たに「介護」を設ける内容。成立すれば留学生が卒業後に在留資格を「留学」から「介護」に切り替え、日本で仕事に就くことができる。

外国人の介護福祉士をめぐっては、2008年度から経済連携協定(EPA)に基づく候補者の受け入れが始まった。しかし資格試験に不合格なら原則帰国など、留学ルートよりハードルが高い。

今国会では、この入管法改正法案とは別に、外国人技能実習制度の適正化法案も審議されており、成立、施行されれば実習の対象職種に介護が加わる方向だ。外国人が介護現場で働く流れが一気に拡大することになる。

ただ、介護業界の慢性的な人材難の大きな理由は賃金の低さだ。そこが改善されていない状況で外国人を広く受け入れると、現在の低い賃金水準が固定化されるのでは、という懸念はぬぐえない。

日本介護福祉士会は「外国人が介護を担うことにより、介護職の処遇や労働環境をよくするための努力が損なわれることになってはならない。その点は国の検討会で確認されており、受け入れの前提と理解している」と話す。介護現場で働く外国人への支援も検討しており、「日本の介護全体の質を上げる努力をしていきたい」という。

留学生の処遇も課題だ。

出すところも出てきた。

日本介護福祉士養成施設協会によると、例年20人程度だった留学生の入学者数は、昨年度は94人、今年度は2・7倍



高齢者施設に災害への備え求める 神戸で説明会

神戸新聞 2016年11月10日

8月末の台風10号による豪雨で、岩手県のグループホームで入所者9人全員が亡くなったことを受け、高齢者ら要配慮者が利用する施設の管理者らを対象に水害・土砂災害などへの備えを呼び掛ける説明会が10日、神戸市中央区の神戸文化ホールで開かれた。神戸市内の約2100施設の関係者が、厚生労働省が求める「非常災害対策計画」策定や、防災情報の活用法を学んだ。

同省はこれまで福祉施設などに計画策定を求めていたが、今年9月に計画の実効性を高めるための通知を出した。火災だけでなく、水害や土砂災害、地震など各施設が直面する災害を細かく想定し、それぞれについて避難先や複数の避難経路、避難方法といった具体的な内容を盛り込むとした。

防災体制の充実に向けて説明を受ける要配慮施設の防災担当者たち ＝神戸文化ホール

このため、近畿地方整備局と兵庫県、神戸市が近畿地区で初めて説明会を開いた。計画策定が必要な施設は県内に約1万1千あり、今後も他地域や他府県で開かれる。

この日は、早めに防災情報を入手することや、計画策定が呼び掛けられた。また、本年度中に計画策定や内容点検、避難訓練の実施などに取り組むよう求められた。

近畿地方整備局の由井伸直水災害予報センター長は「災害時、いつ、誰が、何をするかを事前に決めておけば、いざという時にも迷わず行動でき、想定外に対応する時間もできる。計画を作り、みんなで共有してほしい」とする。(阿部江利)



児童相談所の職員の男、大麻などを所持していた疑いで逮捕

FNN ニュース 2016年11月10日

児童相談所の職員の男が大麻などを所持していた疑いで、逮捕された。

大麻取締法違反などの疑いで逮捕されたのは、栃木・宇都宮市の中央児童相談所職員の市毛 伸一郎容疑者(35)。

市毛容疑者は10月31日、宇都宮市の自宅で、大麻や危険ドラッグなどが入った袋、あわせて3袋を所持していた疑いが持たれている。

市毛容疑者は、虐待防止担当の主任をしていたという。

栃木県中央児童相談所・藤本 早所長は「正直びっくりしております。(市毛容疑者は)まじめな職員で、仲間からも頼られている存在」と話した。

「学校でうんちをしない」は3割 教職員も改善求める産経新聞 2016年11月10日

和式が依然として多数を占める小中学校のトイレを巡って、子供や教職員からは改善を求める声が強い。民間調査によると「学校でうんちをしない」児童は3割に上り、教職員の多くが学校施設で最も改善が必要なのはトイレと考えている。

小林製薬が今年、小学生と母親約600組を対象に実施したネット調査によると「学校でうんちをしない」と答えた児童は31%。特に男子が39%と多かった。和式トイレの多い学校で我慢する傾向が強い。

和式トイレについて、有識者からは我慢することで便秘につながるといった健康面の懸念や、床が汚れやすいなど衛生上の問題を指摘する声も出ている。

東播4市町が“博物館”に 12日からイベント 神戸新聞 2016年11月10日

まち全体を博物館に見立て、ギャラリーや個人宅などで趣味の美術品やコレクションなどを紹介する「かこがわまちかどミュージアム」(神戸新聞社後援)が12～20日、兵庫県の東播2市2町の49会場で開かれる。通算10回目の今回は52組が参加する。

同ミュージアムは2006年から加古川観光協会が主催し、10年を最後に休止したが、市民グループ「まちかどミュージアムを成功させる会」が12年に再開した。

展示内容は、絵画や木工、絵手紙、アクセサリー、写真など多彩。加古川市の西村寿雄さんは染め型紙の版画を松風ギャラリー(同市野口町)で、妻の啓子さんはパソコンアートの絵や写真を陵南公民館(同町)で、それぞれ展示する。また、知的障害のある男性の

書を並べた会場もある。

かこがわまちかどミュージアムをPRする遠藤由美子さん
(左)ら=加古川市加古川町篠原町

今回は、入場者増につなげようと、出展者の一覧や地図などをまとめたA5サイズの冊子(カラー、36ページ)を1万部製作。同会代表の遠藤由美子さんは「作家も入場者も、出会いをつなげるようになればうれしい」と話している。

同会事務局TEL079・420・7758(辰巳直之)



皇太子ご夫妻、式典に出席 農業担い手サミット 日本経済新聞 2016年11月10日
岐阜県を訪問中の皇太子ご夫妻は10日、岐阜市で催された「第19回全国農業担い手サミット」開会式に出席された。全国から集まった農業関係者を前に、皇太子さまは「日本の農業が未来に向けて力強く発展していくことを願います」と挨拶された。

式典に先立ち、皇太子さまは障害を持つ子供の支援や教育を担う県立希望が丘こども医療福祉センターなどを訪問。手足を動かす練習をする子供たちに「よく頑張ってるね」などと話しかけられた。その後、岐阜市内で雅子さまと合流し、農業者らと懇談された。

ご夫妻は式典出席後、新幹線で帰京された。

障害者専門誌の懸賞論文で1位に 岡山の徳田さん、学校教育に提言

山陽新聞 2016年11月10日

身体障害者の社会参加を支援する社会福祉法人・鉄道身障者福祉協会(東京)が発行する障害者問題専門誌「リハビリテーション」の懸賞論文で、岡山市東区、予備校講師徳田有美さん(44)が第1位に輝いた。

懸賞論文のテーマは「進む高齢化と障害者」。全国から108編が寄せられた。徳田さんは「明日咲く花」と題して目の不自由な友人の体験などに触れ、学校教育で高齢者や障害者への配慮を十分に指導していないとして、教育の在り方に疑問を投げ掛けた。



表彰式が1日、岡山市内であり、協会の辻等理事長が徳田さんに表彰状と賞金を手渡し「鋭い指摘を簡潔で分かりやすく表現した」などと授賞理由を説明した。徳田さんはお礼を述べ「一人でも多くの子どもが他人への優しさを持つよう育てほしいとの思いを込めた」と語った。

辻理事長から表彰状を受け取る徳田さん(右)=1日、岡山市

協会は、鉄道関係の職場で事故に遭い、障害を負った人らが中心となって設立。専門誌での懸賞論文の募集は54回目。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行